

# 那須烏山

— No.108 —

2014  
September

# 9

Public Relations Magazine  
of Nasukarasuyama City

- いかんべ祭..... 2
- 第6回子ども議会..... 8
- 広島平和祈念式典へ中学生15人を派遣... 10
- 市新型インフルエンザ等対策行動計画を策定... 12
- 情報公開及び個人情報保護制度..... 14
- 市職員給与のあらまし..... 15
- まちの話題..... 16
- インフォメーション..... 18

市イメージキャラクター



やまどん ここなす姫 からすまる



第37回いかんべ祭り (8月23・24日)

# 天空の光 伝統の響き

# 創造の力 第37回

# いかんべ祭



上:子どもみこしも参加した「いかんべパレード」/下:孫と一緒に。

いかんべ祭実行委員会(村上美香委員長)による第37回「いかんべ祭」が、8月23日(土)の夕方から24日(日)の夜にかけて保健福祉センター周辺で開かれ、約2万5千人の人数でにぎわいました。今年も「天空の光 伝統の響き 創造の力」をテーマに、華やかなステージやパレード、夜空を彩る花火など様々なイベントで来場者を楽しませました。

今月号では、盛り上がりを見せた同祭の様子をお届けします。



②



⑤



④



③



⑦



⑥

①チャリンコ戦隊姫レンジャー/②BEAT CRASH大金jazz/③Cherry Diamond/④会場の清掃をするクリーンボーイ&ガール/⑤cowbell/⑥いかんべ七福神に仮装した皆さん/⑦ザ・マーケット。



①

⑧いかんべ八木舞士／⑨紗喜千代会／⑩アイレ・ペラーノ／⑪フラレア／⑫いかんべ広場「射的」。



## 暑い真夏の祭典に 2万5千人の人出でにぎわった2日間

いよいよ2日間にわたる真夏の祭典の幕開けとなった23日。心配された天気も何とか持ちこたえ、午後5時から前夜祭がスタートしました。

オープニングセレモニーでは、いかんべ祭実行委員会の村上美香委員長が、「各自治会や市内外の企業、市民の皆さんの協力のもと、ボランティアが一丸

となつて今まで準備を進めてきた。今年には、84プログラム約20000人の出演者で盛り上げるので楽しんでほしい」とあいさつしました。

その後、カクテル光線に照らされた100畳以上を誇る県下一の巨大野外ステージでは、市内外の文化団体やアーティストなどが38のステージを披露しました。今年には、特別ゲストとして、2010年9月にメジャーデビューを果たした「LOOPCHILD」で

ボーカルを務める志島出身の柴野真理子さんが6年ぶりに、また、宇都宮市出身のシンガーソングライター「せきぐちゆき」がミニライブに初出演。そのパフォーマンスに観客からは盛大な拍手や歓声を送られ、会場の熱気も一気に高まりました。さらに、毎年恒例となつた「いかんべ八木舞士」が始まると、聴き慣れた音楽に踊り出す観客の姿もちらほら…。夜が更けるのを忘れ楽しい前夜祭が続きました。

⑬LOOP CHILD／⑭烈車戦隊トッキュウジャーと握手／⑮Rough Diamond Kids／⑯鳥山中吹奏楽部／⑰南那須踊り会／⑱上原チヨウ。

翌日の本祭は、午後2時の「いかんべパレード」から開幕。市内の中学校吹奏楽部を先頭に、実行委員や市長、観光協会長などが仮装した「大金いかんべ七福神」、各地区の育成会などによる「子どもみこし」、「お囃子」など15団体が、クリーンボーイ&ガールのプラカード

⑲せきぐちゆき／⑳嵐山陸会の「万灯みこし」／㉑祭を楽しむ／㉒子どもから大人まで笑顔あふれる。



の先導に続いて、つくし幼稚園から保健福祉センターまでを練り歩き、沿道の観客を楽しませました。

会場の「いかんべ広場」では、輪投げや射的、那須烏山消防署による救急車の展示など楽しいイベントのほか、市内の飲食店や製菓店など20店舗が出店し、多くの人でにぎわいました。

そして、午後3時からの「烈車戦隊トッキュウジャーショー」では、突然の雨に見舞われましたが、傘を差しながらステージを楽しむ親子連れの姿がみ



提灯の明かりに照らされて。

られました。その後のステージは、雨の影響で「江川小金管バンド」が欠場。そのほかは予定通りプログラムが進められていましたが、午後7時ごろ再び降り注いだ雨にステージは一時中断しました。雨が上がると多少遅れながらも、フラダンスやヒップホップダンスなど盛りだくさんのステージパフォーマンスで観客を魅了しました。

さらに、前夜祭同様にゲストとして、吉本興業の栃木県住みます芸人「上原チヨ」や、沖縄を代表する創作エイ





サー団体「琉球國祭り太鼓」、大沢出身で演歌歌手の「藤井ゆみこ」、群馬県桐生市のよさこい団体「舞ダンスファクトリー」が出演し、祭に華を添えました。そして、午後9時ごろからは、花火大会が行われ、同時に嵐山睦会の「万灯みこし」も繰り出しました。威勢の良い声が響きわたる中、市内外の企業提供のほか、結婚や誕生など人生の節目を記念した個人の記念花火など1千発が打ち上げられ夜空を彩ると、2日間の真夏の祭典「いかんべ祭」が締めくくられました。



- ①Rough Diamond / ②那須烏山市歌謡協会 / ③WIDE / ④M K / ⑤インドネシア民俗舞踊(矢崎部品) / ⑥烏山小プラスバンド部 / ⑦オカリナ・サークルあんだんて / ⑧柳扇会 / ⑨飛晴 / ⑩荒川小合唱部 / ⑪HAP'S & A.M B / ⑫神長乙女会 / ⑬LOW-KEYS MI YAKO / ⑭ご当地キャラクター紹介 / ⑮Di-va Latina / ⑯坂東会 / ⑰Lovely Candy / ⑱舞ダンスファクトリー / ⑲ハーラウ・オラバクイカライ・オ・ホクアラウニ / ⑳千草会 / ㉑藤井ゆみこ / ㉒千珠流千珠会 / ㉓烏山太郎 / ㉔Jelly Beans / ㉕くれよんダンスサークル / ㉖荒川・下江川中吹奏楽部 / ㉗絆翔 H Y / ㉘荒川小吹奏楽クラブ / ㉙ALLEST / ㉚BEAT CRASH 宇都宮 / ㉛琉球國祭り太鼓 / ㉜BEAT CRASH ジュニア / ㉝すみれクラブ / ㉞ナー・レイ・ホオハノ / ㉟高根沢フラメンコサークル / ㊱君島怜奈 / ㊲BEAT CRASH 上級。



## 市民による手作りの祭「いかんべ祭」 影で支えるボランティア

昭和52年、当時、旧南那須町の青年団や商工会青年部の若者たちが「ふるさと」の良さを見直し、まちぐるみで楽しめるイベントを」と始まった「いかんべ祭」。当初は、今のよう大きなステージはなく、南那須庁舎隣の駐車場で盆踊りやパレードを中心に開催していましたが。後に、「ミニ独立国」「いかんべ共和国」が建国、昭和63年には、「栃木のまつり百選」に選ばれるなど、若者主催の新しい祭として県内でも有名になりました。

しかし、祭を創りあげ、支えてきた青年団は担い手不足などから衰退…。平成10年ごろから運営には、ボランティアが参加し始めました。後に、出演者や地域の有志が運営スタッフの中心となり、現在のボランティアによる実行委員会の体制が整いました。

その頃から、竿灯やステージの登場、小中高生によるクリーンボーイ・クリンガールの活動が加わるなど、形を変えながらも「まちぐるみでのしめる祭」として地域住民の手によって引き継がれていきました。

さて、今年で37回目を迎えた同祭。企画が動き始めたのは、5月13日(火)に開



①提灯のセッティングをするボランティアたち。



②



③



④



⑤

②東海大学の学生が準備を手伝う／③ステージにベニキが塗られる／④本祭途中で突然の雨、実行委員は対応に追われた／⑤祭終了後、夜半まで続いた後片付け。

かれた第1回実行委員会からです。ここでは、大まかな内容が話し合われ、約70人のボランティアにより約3ヶ月にわたる準備がスタートしました。祭の企画からPR、装飾品の制作、出演交渉、寄付金集めなど準備に追われる毎日。8月に入ってから、週1回、ボランティアが会場に集結し、ステージ設営や提灯の制作、補修が行われたほか、スケジュール作成などが着々と進められました。

前日には、本市に自然環境を学ぶためにゼミの合宿に訪れていた東海大学の学生18人が、のぼり旗の設置や会場設営に協力しました。

そして、祭の直前まで続いた準備も無事に進められ迎えた本番。前夜祭では、雨が心配されましたが、天気も持ちこたえ、予定通りステージパフォーマンスが披露されました。前夜祭終了後は、明日のためにとスタッフ全員で会場の清掃やステージの点検などを行いました。

翌日の本祭では、早い時間から大勢の人出でにぎわう中、突然の雨でステージを一時中断。スタッフはスケジュールの調整やステージの整備など忙しく立ち動く姿が見られました。そして、盛大な花火でフィナーレを迎えると、スタッフ全員で夜半まで片付け作業です。翌日も早朝から会場周辺の清掃や後片付けに汗を流し、盛会のうちに終わった今年の同祭も幕を下ろしました。



夜空に打ち上げられた大輪の花火。

した。

今年、ステージやパレードを含め、県内外から約2000人が出演したほか、豪華なゲストを迎え、一段と盛り上がりを見せました。これも、市民による手作りの祭「いかんべ祭」が地域住民は もちろん県内外からも受け入れられ、親しまれる祭になってきたから…。これからの発展に期待が寄せられます。

来年は、さらに盛大にとスタッフ一同も意気込んでいます。しかし、ボランティアの人数も年々減少傾向に…。また、人員の高齢化も進み、若手が不足している状況です。実行委員会では、運営に参加する仲間を募集しています。地域に元氣と感動を届けるこの祭に、来年はあなたも参加し、充実感を味わってみませんか。

いかんべ祭

## 都市交流事業盛んに

# 交流深め本市の魅力を発信！！

本市では、東京都世田谷区、東京都豊島区、埼玉県和光市を中心に、例年、都市交流事業を積極的に進めています。今年も、互いの地域に向いたり祭りに参加したりと様々な形で交流を深めましたので、その様子をご紹介します。

### 世田谷区の祭り

#### 那須烏山市をPR！

市では、東京都世田谷区で開かれた第37回「せたがやふるさと区民まつり（同実行委員会主催）」に8月2（土）・3（日）の2日間参加しました。

当日は、アユや興野直売所による新鮮野菜の販売、観光パンフレットの配布など本市の魅力を発



那須烏山市産の野菜を販売。

信しました。ブースには、多くの人々が立ち寄り、本市を知ってもらうきっかけとなりました。

また、市では、10月には「豊島区ふくろ祭り」、11月には「豊島区全国物産展」「和光市民祭り」に参加する予定です。

### 那須烏山市民と

#### 豊島区民が相互交流

市では、「非常災害時における相互応援に関する協定」を結ぶ、豊島区と夏休み期間に相互に交流事業を行いました。

荒川南部土地改良区（久郷造理事長では、今年で9回目となる）「自然に触れよう！！いななか川遊び」を、8月3（日）・4（日）の2日間にわたって開き、豊島区から親子連れ37人が本市を訪れました。

この事業は、都会の子どもたちに豊かな自然に親しんでもらおうと、平成17年から始めたものです。年々、応募が増え、抽選で選ばれた



川遊びを楽しむ豊島区民。

いと参加することが出来ないほど好評を博しています。

本市を訪れた親子は、初日、小橋鉄橋下流で川遊びや水生昆虫の観察、畑でのとうもろこし収穫、交流会などをし、翌日は、早朝からカブトムシ捕りや芳朝寺で座禅体験をしました。また、本市の親子11人も参加し、同区民と遊びを通して交流を深めました。



都会での1日を楽しむ本市民。

◇ 8月19日（火）には、豊島区による「1日豊島区民の旅」が開かれ、市民36人がバスで豊島区の観光名所を訪れました。

参加者は、サンシャインシティで買い物や水族館の見学、あうるすぽっとで演劇「マクベス」を鑑賞するなど、都会での1日を楽しみました。

### 和光市民

#### 本市で自然に触れ合う

7月26日（土）から27日（日）にかけて、埼玉県和光市の親子10組33人が、「夏休み里山体験教室」で本市を訪れ、農家にホームステイしました。

和光市とは、平成8年9月に旧烏山町が災害時に相互応援協定を



南那須庁舎での開校式。

締結して以来、相互防災訓練への参加や自治会連合会の相互訪問、親善少年サッカー大会などにより積極的な交流が続いています。今年も恒例となりつつあるこの体験教室は、里山を肌で感じられると大人気。毎年、定員を上回る応募があります。

初日、南那須庁舎に集合した参加者は、ホームステイの受入家族と対面。その後、山あげ祭の見学や農業体験などを通し、本市の文化や自然に触れ、交流を深めました。翌日には、昆虫採集やホームステイ先の家族と触れ合うなど、2日間わたって楽しい時間を過ごしました。

# 子ども議会を開催

## 小中学生が議場で議会を体験

市では、8月4日(月)、市議会議場で第6回「子ども議会」を開き、市内小学校から12人の児童生徒が本番さながらの議会を体験しました。

同議会は、未来を担う小中学生に、市議会の仕組みや市の施策などに実際に触れてもらい、まちづくりに関心を持ってもらおうと毎年開いているものです。

当日は、各校の代表の小学生7人、中学生5人が議員として出席。大谷範雄市長をはじめ、課長などの市執行部の前で、子どもの視点から一般質問しました。議長には、中学生3人が交代で議事を進行。傍聴席では、保護者や各校の



議場で発言する児童。

教諭など多くの人々が訪れ、議会の行方を見守りました。

なお、参加者と質問内容は次のとおりです。(敬称略、順不同)

### 【小学生】

- 江川小6年 永島千豊
- ・ 新中学校の学校名や制服、通学方法など、どのように決定していくのか
- 荒川小6年 小林祥真
- ・ 市の自然環境を守るために市民全体でゴミを拾う日を設けたらどうか。また、生ゴミのたい肥化ができないか
- 荒川小6年 内田明香里
- ・ 市の医師不足を防ぐための方法はあるか
- 境小6年 神山舞
- ・ ボランティア活動を活発化する取り組みはあるか
- 烏山小6年 堀江心乃
- ・ スポーツ施設の充実について、今後、整備の予定などがあるのか
- 烏山小6年 安齋瑠夏
- ・ 学習環境を良くするため35人学級とすることは難しいことなのか
- 七合小6年 荒井永環
- ・ 災害が発生した時に避難場所での子どもや高齢者に対する対応はどのようなものか



手を上げ質問する生徒。

### 【中学生】

- 下江川中3年 谷口未紅
- ・ 観光客を呼び込む新たな観光資源の開発やPRをする計画はあるか
- 荒川中3年 仲山嘉奈
- ・ 芸術鑑賞の機会や場を市で設けることができないか
- 荒川中3年 木村健太
- ・ 烏山城の歴史的価値を多くの人に認識してもらえよう、城跡の再建や案内板の設置など、見学コースを整備しはどうか
- 烏山中3年 澤村祐樹
- ・ JR烏山線沿線の高根沢町や近隣自治体と協力して、蓄電池式電車を利用



本番さながらの議会を体験した12人。

- した市を活性化する計画はあるか
- 烏山中3年 伊藤由布子
- ・ 安心して子育てができる豊かなまちづくりのための施策にはどのようなものがあるか

### 子ども司書講座を開講

## 小学生が図書館の仕事体験



# ボランティアサマースクール 高校生が福祉を学ぶ



子どもたちと触れ合う高校生たち。

市社会福祉協議会(丸山真一会长)では、8月4日(月)から7日(木)

## ジオパーク設立に向けて… ジオパーク構想教室開催

市では、8月10日(日)、烏山公民館で第1回「ジオパーク構想教室」を開き、子どもからお年寄りまで30人が参加しました。

当日は、栃木県立博物館から柏村勇二さんと林光武さんを講師として招き、「那須烏山市で見つかる化石と水辺の生きものたち」と題した講演会を行うと、参加者は興味深く耳を傾けていました。

「ジオパーク」とは、geo(地球・大地)とpark(公園)を合わせた造語で「大地の公園」とも訳され、自然・文化遺産を保全し活用することによる地域振興を目的としており、その活動は世界規模でユネスコもその活動を支援しています。国内では、平成25年12月までに全国33地域が「日本のジオパーク」として日本ジオパーク委員会により認定されています。

本市は、約1千万年前の第三紀層から発見された大金クジラの化石や貝化石の産出、シモツケコウホネが自生するなど自然豊かな地域です。

今年度より、本市では、ジオパーク設立のため、各種講座やバスツアーで地域の皆さんと一緒に本市の魅力を見直し、那須烏山市版ジオパーク構想を検討します。



化石探しに挑戦。

にかけて、「ボランティアサマースクール」を開き、高校生5人がボランティア体験に挑戦しました。

これは、地域や福祉施設で体験をすることで、福祉やボランティア活動に関心を高めてもらおうと、毎年、市内在住及び在学する高校生を対象に開いています。

初日は、社会福祉センターで、くれよんクラブ所長の高野陽子さんによる、発達障がいへの正しい理解や関わり方の講義のほか、栃木県視覚障害者福祉協会会長の須藤平八郎さんを講師に、アイマスクを使った視覚障害体験などをしました。2日目以降は、「子ども発達支援センターくれよんクラブ」と「あすなろ」に分かれ、利用者と交流を通して福祉を体験。最終日には、グループワークで振り返りをし、体験をして学んだことや感じたことを一人ひとり発表しました。

くれよんクラブで体験をした、烏山高校2年の村上有董さん(さくら市は、「最初は思ったように子どもたちと接することができなかつたけど、体験を通してたくさんの気付きがあった。将来、子どもを相手にする職に就きたいので良い経験になった」と話していました。



司書の仕事を体験する子どもたち。

南那須図書館と烏山図書館では、8月2日(日)、9日(土)に「子ども司書講座」を開き、市内の小学4年生か

ら6年生までの13人が図書館の仕事体験しました。

これは、司書としての仕事を通して、子どもたちに図書館に対する興味と読書に関心を持ってもらうと今年初めて開いたものです。

当日、子どもたちは、開館前の準備の様子や、普段入ることができない書庫の見学、カウンターで本の貸し出し・返却などを体験。緊張した表情を見せながらも一つひとつ仕事をこなす姿がみられました。また、講座終了後には、終了証とオリジナルバッチが手渡され、夏休みの良い思い出となったようです。

# 広島平和祈念式典へ派遣

## 中学生15人が

## 平和の尊さ胸に刻む…

市では、8月5(火)から7(木)までの3日間、市内3中学校の生徒15人を派遣団として広島市に送り、「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列しました。

これは、これからの将来を担う中学生に戦争の悲惨さや平和の尊さを自らの目で見て認識してもらおうと昨年度から始まったものです。派遣先では、式典参加のほか、平和記念公園や平和記念資料館などを見学しました。

派遣を通して貴重な体験をしてきた中学生の感想文から一部抜粋して紹介します。(敬称略、順不同)



原爆ドームを見学した生徒たち。



平和記念資料館で当時の様子を知る。

■下江川中3年 佐藤優梨香

式典では、日本人のほか、海外の人々も参列していた。唯一の被爆国である日本が、原爆や戦争の恐ろしさを伝えていかなければいけないと思った。今回の派遣事業で、今までどこか遠い存在だった「戦争」の現実を深く知ることができて良い経験になった。

■下江川中3年 佐藤来海

資料館の展示物は、見るにも耐えない物ばかりで、戦争や核兵器の残酷さを物語っていた。原爆によってどうなってしまうのか、行ってみて現実を目の当たりにした。3日間という短い間だったけれど現実をかみしめ、多くのことを学ぶことができた。

■下江川中3年 鈴木颯人

原爆は、人の体と心を傷つけ、人々の生活を奪い、悲しませる兵器だと痛感した。今自分が平和のためにできることは、大きなことではないが、戦争という過去の事実を忘れることなく心の中に刻み、同じ過ちを繰り返さないと思う。

■荒川中3年 佐藤悠歩

一番印象的だったのは、原爆により全身やけどをおった人々が、広島を埋めつくし、水を求めて歩き回っていたという話が心に残った。派遣では、改めて戦争の悲

■荒川中3年 野澤羅生

原爆で多くの人々が被爆し、多くの人が亡くなり、当時12歳の少女が自分だけが生き残っていることが「申し訳ない」と言っていたことを聞いた。たとえ被爆して生き残っても一生忘れられない深い傷を心に負ってしまうほど原爆は恐ろしいものなのだと思う。

■荒川中3年 伊帳田小春

式典では、平和宣言や平和への誓い、総理大臣や広島県知事などの話を聞いた。どの話にも、「核兵器をなくすこと」「平和の実現」この2つの言葉があった。69年前に起きたことを二度と繰り返すことのないように核兵器をなくすこと、そして、世界の平和を願いたい。

■荒川中3年 高田夏希

原爆の恐ろしさや被爆者の苦しみ、たくさん罪のない人々の命が一瞬にして消えたことは実際に体験をしないと戦争の本当の姿は分からない。しかし、資料館で学んだことや式典に出て何かを感じ取ったことは自分にとってとても大きなことだと思う。

■鳥山中3年 佐藤淳

原爆ドームは、テレビや写真で見ると初めは目には見えない。他にも初めて目にしたり知ったことがたくさんあり、この派遣は自分にとって大切な宝物になった。

■鳥山中3年 佐藤笙

慰霊碑に書かれた「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませんから」の文字が重苦しく感じた。これから戦争体験者の減少による平和主義思想の衰退をこの日本が考え直さないといけない。そのため、自分たちが戦争についてもっと知る機会が必要だと思う。

■鳥山中3年 井ノ上綾香

原爆ドームなどを訪れ、約30万人もが原爆の熱線や爆風、放射線などの影響により亡くなっていることを初めて知った。今の私ができることは、世界の現状を知ることだと思う。平和の大切さを理解し、それを築いていくのは私たちだという自覚を持ち続けたい。

■鳥山中3年 小口明峰

派遣に参加して、改めて原爆の威力の大きさや命の尊さを考え直すことができた。資料館では、人の皮膚が焼けただれている模型や病気で辛そうにしている人々の写真があり、当時の恐ろしさや被害者の悲しみが伝わってきて、もう起こってほしくないと思った。

■鳥山中3年 大鐘莉里奈

広島では、普段の生活では見られないようなものばかりが並んでいて3日間驚きの連続だった。私のような中学生の小さな力でできることは少ないけれど、私にでき